

平成 27 年度第 4 回博物館構想策定委員会議事概要

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 26 日(火) 10 : 00 ~ 11 : 40
- 2 場 所 小田原市民交流センター UMECO 会議室 5、6
- 3 出席者 委員 : 矢島委員長、井上委員、吉良委員、田尾委員、中村委員
職員 : 栢沼教育長、諸星文化部長、杉崎文化部副部長、安藤文化部副部長、隅田総務部副部長、大島文化財課長、古矢図書館長、諏訪間城址公園担当課長、望月行政情報係長、佐々木主査、鈴木主事、橋本主事、坂井主事、大木主査、堀田指導主事
事務局 : 友部生涯学習課長、湯浅尊徳記念館担当副課長、岡郷土文化館係長、茂木主任、大貫主事、中村主事

4 概要

教育長挨拶

栢沼教育長から挨拶があった。

協議事項

小田原市博物館基本構想文案について

【矢島委員長】 前回活発にご議論いただき、その内容を踏まえて事務局で文案を再整理した。今日はそれについて、次第にあるとおりの「新しい博物館の活動」のところまでを中心にご議論をいただきたい。前回ご説明があったように、それ以降の部分、施設・設備や運営、組織のところなどは次回とさせていたたく。前半の部分に関しては、本日の会議で取りまとめたいと考えているので、ご協力を頂きたい。それでは、まず、事務局の方から、どのように文案を再整理したか、ご説明願いたい。

【友部生涯学習課長】 それでは博物館構想案について、全体の構成、文案の順にご説明させていただきます。

最初に、全体の構成についてご説明する。資料 1 をご覧いただきたい。

前回 12 月の会議で皆様にお示しした構成案を表の左側(旧)に、中央に前回頂いたご意見を、右側にご意見を踏まえて修正した案(新)を記載している。

構成で大きく変更した箇所は、旧の構成案で言うと「2 基本的な考え方と目指す姿」「3 おだわらフィールドミュージアムの方向性」の部分である。

こちらは前回、小田原の博物館活動全体としての基本的な考えかたを示し、それによって目指す姿をフィールドミュージアムと新しい博物館という 2 つの柱で表現していたが、委員の皆様よりフィールドミュージアムの概

念は新しい博物館の上位概念ととらえてはいかがかというご意見をいただいたことから、フィールドミュージアムを基本的な考え方のひとつに移し、(旧)の2と3を(新)の2に集約した構成に改めた。

なお、基本的な考え方の構成については、小田原の歴史的文化的な位置づけを踏まえ、博物館資料、地域資源ともに適切に保存・活用しなければならず、そうした活動は行政だけでなく市民とともに進んでいくことで、まち全体を博物館としてとらえる、という組み立てで「(1)小田原の歴史をたどる」「(2)小田原の宝を守り未来に伝える」「(3)市民とともに活動する」「(4)まちをまるごと博物館の活動に活かす」の順とした。

次に、個々の章節について、前回から修正した箇所について、(新)の構成をもとに改めて上から順に、ひとまず2章までご説明する。

はじめに「1 博物館構想の背景」の(1)については、新しい博物館を発展的に継承する郷土文化館の現状の課題をより見えやすくするため節の題を改めた。(3)についても、地域資源の置かれている現状をより見えやすくするために、節の題を改めた。

次に、「2 基本的な考え方と目指す姿」の(1)については、小田原を理解するためには周辺地域も併せて考えなければならないことから、(旧)では小田原・足柄平野という広がりを持った表現であったが、かえってそれに縛られて必要どころが入れられない、また具体像が想像しづらいののではないかということから、「小田原」というゆるい表現として、周辺地域については本文中で盛り込むこととしたものである。(2)については相澤副委員長のご意見を受け「守り」を追記した。(3)についてはここだけ「〇〇を〇〇する」的な表現になっていなかったため、市民と行政がともに博物館活動を行っていく趣旨の表現に修正したものである。(4)については井上委員・吉良委員からフィールドミュージアムというカタカナ言葉では伝わりづらいというご意見をいただいたことから、修正した。

2章までのご説明は以上である。

【矢島委員長】 資料は事前送付させていただいているため、細かく読み上げることはしないが、第1章と第2章についていかがか。不足している点や、構成上ここでない方がよいところなど、ご意見いただきたい。

私見を述べさせていただくなら、今まで皆様からご意見いただいたことが、

だいぶ整理されてきたと感じている。逆を言えばさらっと読めばさらっと読めてしまう。引っかかるところのない文章とも言えるのだが。

【井上委員】 一読して、委員長が言われるとおおり、今までの議論がかなり反映されて、うまくいれたという感じはしている。2点ほど気付いたところを申し述べると、前回、フィールドミュージアムという言葉についてはいろいろと言わせていただいたが、「まるごと」という言葉になり、これはよかったと思うのだが、言葉のことは別にすると、前の案では小田原フィールドミュージアムというのが、かなり前面に出て、キーワード的に扱われていたので、いわゆるまるごと博物館という理念が前面に出ていたのだが、今回の案ではトーンダウンして後退した感があるのが1点目である。もう1点は、今日の議論は途中までということであるが、全体にかかわるので申し上げますと、「おわりに」のところが気になっている。様々な課題的なことをさらりと言って終わってしまっているように感じられ、「おわりに」の中に非常に重大な要素が盛り込まれているように思える。単なるおわりではなく、逃げてしまったところが最後になってしまっていて、この表題が違うように思えるので、その議論もさせていただかないと、特に方向性と「おわりに」のところは連動するため、それは気になった点である。気になったのはその2点であるが、これまでの議論を反映して非常にすっきりとわかりやすくなったのは確かである。ただ、委員長が言われるように、すっきりと読めてインパクトがないという感想は持った。

【田尾委員】 前回欠席させていただいたのだが、前回、フィールドミュージアムという言葉で表現されている博物館の一つの役割を盛り込まれたのだと思うが、読ませていただくと、まるごと博物館というスタンスは理解できるのだが、新しい博物館が、まるごと博物館の中でどのような役割を負うのかというところがぼやけているように思う。例えばまるごと博物館の中核を担うのか、あるいはサテライトとしての充実を図るのか、そういったところが明確になっていないという印象を持った。

【中村委員】 わたしも前回欠席だったのだが、言葉の使い方のことで「宝」という言葉について、古い言葉をあえて新しい使い方で使いたいというお気持ちはわかるのだが、全体の文章の表現の中で、違和感がある。例えば、前に出てくる「豊かな地域資源」という言葉と「宝」という表現に距離があるので、

もう少し普通の言葉で、あえてこうしたクラシックな言葉をお使いにならなくてもよいのではないかと思う。それから「まちをまるごと博物館の活動に活かす」というところで、流れが悪いように思うのだが、活動に活かすのではなく、趣旨はおそらくまちをまるごと博物館にするということであろうと思う。であるので、活動に活かすというのはニュアンスが違うように思う。全体に、フィールドミュージアムという用語が消えて精神が活かされたというのは、わたしはよかったと思う。

【矢島委員長】 これまでのところ、取りまとめに特段異論はないと判断できるが、井上委員が言われるように「おわりに」が残された課題になってしまっている。これは 3 以降の具体的な課題の中で盛り込むのか、大きな考え方の中に盛り込むのかということはあるのだが、取り込める、あるいは取り込むべきものについては、もう少し前の方に入れて、こうした課題に立ち向かっていくためにも新しい博物館が必要だという議論、あるいは提言、組み立てにした方が答申の意味としてわかりやすいと思う。課題を挙げて終わりでは弱いので、工夫は必要である。もう一つ、田尾委員からのご指摘は、「はじめに」に、新しい博物館は本市の博物館機能の中核を担うとあり、これを受けるような形で、まちをまるごと博物館とするという考え方の中に、この博物館の位置を明らかにした方がよいのではないかと思う。

【田尾委員】 3 に全体を取り込んで章を統合したためにそうなったのではないかと思う。

【矢島委員長】 新しい博物館だけでなく、既存施設も、まちをまるごと博物館としていこうという中で、どういう役割をもって、どういう位置を持つのだということが一文必要であろうと思う。大きく修正する必要はないが、加筆して頂ければおおよその形はよいのではないか。

【岡郷土文化館係長】 一応、「3 新しい博物館の方向性」に博物館の位置づけとして「小田原全体を博物館として活かす取り組みを進める中心的な施設として、郷土文化館を発展的に継承した新しい博物館が必要である」という文章は入れさせていただいている。

【矢島委員長】 3 にすべて盛り込めるということになるか。

【田尾委員】 やはり 2 の題目が博物館の基本的な考え方であろうと思うので、そこにも入れておいた方がよい。(4)だけが主語がまるごと博物館になっている

ので。

- 【矢島委員長】 ご意見を受けて事務局と協議のうえ、文章化させていただきたい。次に、「宝」という文言についてはどうか。
- 【中村委員】 ここだけが違うように思える。あえてということであればそれでもよいが。
- 【矢島委員長】 小項目のタイトルもカッコをつけたほうがよい。
- 【友部生涯学習課長】 事務局としてはキーワード的に用いたものである。小田原の結晶というような意味合いで。
- 【中村委員】 そのように使われているのはわかる。
- 【友部生涯学習課長】 結晶よりは宝か、と思いこれを用いているが、ほかに良い表現があれば変更するのはやぶさかでない。
- 【中村委員】 ほかは文章が統一されているのだが、ここだけが表現に違和感がある。ほかの箇所もこのような表現であれば、そのような文章もあり得ると思うのだが。少しわかりにくいと感じる。
- 【矢島委員長】 カッコをつけ、地域資源のことを述べている箇所でも入れれば整合がとれるのではないか。宝という文言を修正しても、包括的に全体を表現する適当な言葉がなかなかない。文化財という言葉で地域資源を説明しても。
- 【中村委員】 つまらなくなってしまう。地域資源と宝の間にくるような言葉がない。感覚的なこともあるのだが。
- 【矢島委員長】 確かにそう思う。
- 【井上委員】 わたしは宝という言葉は市民向けにはわかりやすいと思うので、タイトルにカッコをつければよいのではないかと思う。カッコがないと少し違和感はあるが。
- 【矢島委員長】 それではここはカッコをつけた宝という言葉を使わせていただくことにして、同じ2頁の(3)の中でカッコつきの宝という言葉を入れて、それがどういうものを指すのかをわかるようにさせていただければと思う。それでは、3、4について事務局からご説明願いたい。
- 【友部生涯学習課長】 「3 新しい博物館の方向性」では、第2章で示した小田原全体としての博物館活動の基本的な考え方を踏まえ、ではその中で新しい博物館はどのような方向性を目指すのかということをお前回鳥居委員からここは資料のことではなく、目指す方向性を示すべきであるというご指摘を受けたことも

踏まえ、6つの節で整理した。まず「(1)小田原の歴史・文化を伝える歴史総合博物館」では、本市の特性を踏まえ、博物館の性格としては歴史・民俗・考古を主体とする歴史総合博物館とすることを述べた。「(2)誰でも使いやすい博物館」では、年齢・性別、障がいの有無はもとより、国内外からの観光客が多いなどの特性も踏まえ、どのような人にとっても使いやすく、気軽に利用できかつ博物館としての要望にも十分に対応できる施設を目指すことを述べている。「(3)市民と育てる博物館」では、博物館資料や豊富な地域資源を使って様々な市民活動が行われている本市の実態を踏まえ、博物館で行う諸活動を館の職員だけでなく、市民や団体とともにいきなり、成長していくことを述べている。「(4)学校教育と連携した博物館」では、学校教育と連携して次代を担う子どもたちの学習に資する博物館を目指すため、受け身の姿勢でいるだけでなく、積極的に学校教育の需要を掘り起こし把握し対応していくことを述べている。「(5)災害に強い安全な博物館」では、本市が全国的に見ても大地震が最も想定される地域のひとつである立地特性を踏まえ、利用者や博物館資料の安全に最大限留意するとともに、平時の防犯管理も十分に配慮していくことを述べている。「(6)情報を集約し発信する博物館」では、既存施設を含めた博物館資料や豊富な地域資源等の各種情報の一元管理はもとより、小田原の歴史・文化に関する情報を積極的に収集することや、それを広く活用していただくために積極的に情報発信していくことを述べている。

「4 新しい博物館の活動」では第3章で示した新しい博物館の方向性を踏まえ、博物館が行う活動について述べたものである。各節の題はこれから具体的に新しい博物館の整備までには期間を要することから、陳腐化しない普遍的な表現とした。各節で「収集」「保管」など、機能としては異なるものを並列してあげているのは、文章にした際に流れがつかみやすいように併せてあげているものである。節の順については、市民が読んだ際に、見えやすいところから順に構成した方がわかりやすいと思われることから、この順としている。また、これらの活動は相互に関係することから、一部内容が重複する表現がある。

まず「(1)教育・普及」では、特に学校教育との連携を図るための講座等のメニューの充実や、いわゆる無関心層の掘り起こし等について述べてい

る。「(2)展示・情報発信」では、本市の歴史・文化が誰にでもわかりやすくかつ安全に展示を行うとともに、委員の皆様からのご意見を受けて、現在、郷土文化館で課題となっている常設展の定期的な見直しについても明示している。また、様々な研究活動や市民活動に寄与するために博物館が持つ情報を積極的に発信することを述べている。「(3)調査・研究」では、他の活動を支える基礎となる部分のため、これを充実させることはもとより、市民とともに調査・研究を行い活用していくことを述べている。「(4)収集・保管」では、小田原の豊富な博物館資料をきちんと未来につなげるために収集方針に沿って収集するとともに適切に保管・保存を行い、現在郷土文化館で課題となっている現有博物館資料の適切かつ安全な保管・保存を図る必要があることを述べている。

5の「新しい博物館の施設・設備・立地」以降は、次回の委員会でご協議いただきたいので、本日ははじめにから第4章までの内容についてご協議いただきたい。

ご説明は以上である。

【矢島委員長】 これは文章的なところになるが、3(2)の「また、気軽に来館してもリピーターにも楽しめるような施設であることが望まれる。」は、言いたいことはわかるのだが、端折りすぎていて意味が通じづらいと思う。こちらは修正していただきたい。

それと、「新しい博物館の方向性」で「小田原全体を博物館として活かす取り組みを進める中心的な施設として」云々と、連携の話が出てくるのだが、具体的な連携の姿、中核館として位置付けるという積極的な姿勢があるのであれば、(7)の節を設け、連携の中核になるということを明示すべきではないかと感じたのだが、前文で触れているからあえて細かいところまでは触れないという考え方もあると思うのだが、いかがか。(1)から(6)はこれまでの議論を整理していただいたので、特に問題はないように思うのだが。

【中村委員】 また言葉のことになってしまうのだが、2の「基本的な考え方」はすべて動詞形になっているので、3も動詞形でもよいのではないかと。当然すべて博物館のことなので、博物館で止めてもよいとも思うが、「市民と育てる」といった書き方もあるのではないかと。全体の構成もあり、難しいところだ

と思うが。2と3は対応していると思うので。すべて動詞形にできるかわからないが。

【友部生涯学習課長】 ここも「宝」と同じである。

【中村委員】 であると思う。どちらがいいというのではなく、選択である。

【吉良委員】 (4)の「学校教育と連携した博物館」では、博物館が協力するという姿勢が強いが、これからは子どもが発見する様々な事象を、一緒に考えていくうちに、大人が失いつつある何かを、博物館が子どもたちから教えられるという仕組みができるのではないかと考えている。上から目線の学校教育ではなく、子どもの自発性、子どもの目の方が歴史・文化を見抜く力があって、その感性をどうやって引き出していくか、という協働の時代がくるのではないか。普通連携というのはこういう意味で言っているのだが、もう少し踏み出してもいいのではないかと考えている。大人目線が強いのではないかという気がしている。ただ、ここに盛り込むのはなかなか難しいと思うが。

【田尾委員】 若干関連するのだが、博物館側も子どもたちにたくさん来てもらわないと、今は高齢者の利用の方が多くて、子どもの利用者が少ない。子どもの利用者が少ないということは、将来的に博物館に親しんだりなれたりしている年齢層がだんだん少なくなってくるということである。子どものうちに博物館を利用してもらう仕組みを、文言には関係ないのだが、つくっていくような裏の課題を持っておくよいか、と思う。美術館でもワークショップには来るのだが、展示に流れていかないという傾向があると聞く。

【矢島委員長】 子どもたちと博物館という問題は、はかかなり大きな問題なのだが、「学校教育と連携した博物館」という項ではなく、むしろその上の「市民と育てる博物館」の中で子どもを位置付けるということで、今のお話は取り込めるのではないか。市民という言葉ではなかなか子どもが見えてこないの、あえて子どもという言葉を出しながら、市民の中に子どもを含む、子どもの力を博物館が大事にするということ、そういう方向性をこの中に盛り込むということで、文言を修正させていただきたい。

【井上委員】 わたしも今のお話に基本的に賛成である。「市民と育てる博物館」の市民は生涯学習的な意味合いで、大人を想定しているように思う。子どもと学校教育というのは明確に違うと思う。子どもと博物館という問題はこれか

ら非常に重大な問題になってくるが、子どもと学校教育というのは構成は同じなのだが、基本的に違うものなので、学校教育としての連携というのは、また違った面で、子どもに対する手段としては大切であり、これは残して強調する必要があると思う。学校教育との連携はキーワードとしてはよいと思う。ただ、「市民と育てる」という中で、市民イコール大人になってしまうので、ここで子どもが学校教育の範疇ではなく、子ども自体と博物館がどう結び付けるかという時に、学校教育を介在しないで違った面もあると思う。学校現場でいうと、なんでも学校にお願いしてという意識があり、この場で言うのもなんなのだが、学校現場はいろいろなところで要求をされている。学校を通しての組織としての対応も大切なのだが、学校教育を介さないで、子どもに対してのアプローチも、この「市民」のところで打ち出させていただくとよいと思う。

- 【吉良委員】 子どもも含めて社会の中で育てるということである。
- 【矢島委員長】 子どもと博物館ということについては、この(3)の中で加筆をさせていただく。方向性についてはこのような形でよろしいか。中核と関係する諸施設のことをもう少し書く必要があるか。前文の中でよろしいか。
- 【諸星文化部長】 先ほどの田尾委員のお話ともつながる部分であると思う。全体の構成が変わったことに伴い、まるごと博物館という全体のイメージがトーンダウンをした。ただ、それによって上位概念と新しい博物館ということで整理されてきた。これは皆様に受け止めていただいたと思う。逆に、そのことによって新しい博物館の役割が、まるごと博物館の中でどのような役割を果たすのかということと、その一方で既存施設と新しい博物館がどのような関係にあるのかということが、少し見えにくくなってしまったというご指摘であると思う。我々としても悩ましいのが、一項目として中核館ということを出したほうがよいのか、ということがある。ただ、今のままでは新しい博物館の役割が見えにくい、性格付けが少し見えにくいというところと、既存施設と地域資源の関係が、少し書かれていないように思うので、そこは書かれるべきであろうと思う。であるなら一項目立てるべきかとも思うが。
- 【矢島委員長】 基本的な考え方、目指す姿にあるところのものを文章化することで、項目としては立ち上がると思うのだが。特に、既存施設の関係は、細かくは書

きようがないので。それぞれの独自性を尊重しながらも、つなげていく核になるのだというような表現が、しておいてしかるべきかと思うが、いかがか。

【田尾委員】 前回、フィールドミュージアムの方向性を1から4まで挙げられているが、だいたいこの内容がオミットされた部分があると思うので、そういったところから必要なところをピックアップして、その中での中核を担うという形で説明すればよいのではないか。

【矢島委員長】 では、この「新しい博物館の方向性」の中に(7)という形でその位置づけを明らかにするような項を追加させていただきたいと思う。

【中村委員】 (6)の「情報を集約し発信する博物館」だが、情報という表現は非常にあいまいであると思う。どんなものも情報であるので。ここでどのような方向性で情報を発信するのか。例えば地域の情報であったり、博物館が収集した資料の情報も情報である。情報というと漠然としていて大きい。そうすると当たり前の、普通のことになってしまう。ここは方向性であるので、難しいかもしれないが、別の表現では。

【友部生涯学習課長】 まさにこれは様々な情報になってしまうと思う。

【中村委員】 絞るのは難しいと思うが、情報というところからゆるものになってしまう。

【田尾委員】 2行目に地域資源と並列して書いてあるが、これもひっくりめれば地域資源になる。

【矢島委員長】 展示から何から情報発信ではある。

【中村委員】 これはあいまいにしておいた方がよいのかもしれない。

【矢島委員長】 これは宿題とさせていただきたい。地域資源の情報というだけでもない。

【中村委員】 そう思う。

【矢島委員長】 一行目の小田原の歴史・文化に関する情報であると思うが。

【中村委員】 第一にはそうであると思うが、それだけではなく地域に関する情報を発信しようというのがこの博物館の狙いであると思う。そこがうまく表現できるとよいと思うが、できないなら情報という言い方がいいのかもしれない。

【矢島委員長】 一行目の「小田原に関する歴史・文化に関する情報」は、どんな情報が出るのかというと、具体的には収蔵資料その他ということになると思う。その前に歴史・文化に関する情報の発信だという宣言のようなものを入れれば整理がつくか。

- 【田尾委員】 最初の「ついで」はどこにかかるか。新しい博物館に収蔵される資料だけなのか、既存施設の資料の情報も含めてなのかに関わると思う。
- 【友部生涯学習課長】 すべてにかかる。すべての情報は一元管理されるべき、ということ述べたかった。
- 【田尾委員】 であるとするなら、矢島委員長が言われるように歴史・文化に関する情報についての宣言であると思う。
- 【矢島委員長】 ここは「ついで」の前と後の文章を整理し直していただきたい。小田原の歴史・文化に関する資源を集約して、その情報を発信するということになるように、文章的な整理をお願いしたい。
- それでは、4に移らせていただく。
- 【吉良委員】 基本構想なので、カタカナはできるだけ日本語に直したほうがよい。
- 【中村委員】 これも表現のことなのだが、ここになると急に博物館概論のような、あるいは役所的な表現になってしまうので、前のところでは、先ほどの「宝」もそうだが色々と工夫をされて柔らかい表現で構想文をお造りになっているのに残念なので、4も表現に工夫があるとよいと思う。あまりにもオーソドックスで、新しい方向性があるにしても、実際にやる活動としてはこの4本でよいのだと思うが、もう少し言葉として良い表現がないか。活動というところで新しいものを出せないかとも思うが。確かに博物館の活動というとしてすべてここに入ってしまうのだが。
- 【吉良委員】 もう少し生き生きした日本語にした方がよいと思う。
- 【中村委員】 ここはあえて展示と情報発信を分けるというやり方もあると思う。今までの言葉に合わせる形で。せっかく新しい博物館なので。
- 【吉良委員】 市民が見るものである。ちゃんと説明をする必要があると思う。
- 【友部生涯学習課長】 博物館の活動という、この4つということを書いてしまったもので、表現の硬さはあると思う。
- 【矢島委員長】 最低限、中黒を「と」に直すというやり方があると思う。展示と情報発信、など。私の経験で、ほかのところでも似たようなことがあり、ここだけはどうしてもうまい表現がなく、「と」を使ったことがある。
- 【田尾委員】 もう少し簡単な表現にするというやり方はあると思う。例えば一番目では「まなびを支える」など。
- 【中村委員】 ちょっと違う表現にすると全体がよくなると思う。文章として読まれるも

のなので、全体の調子は大切である。動詞形を使ってもよいかもしれない。

- 【矢島委員長】 タイトルを変えるというご指摘だが、内容についてはいかがか。
- 【田尾委員】 (4)の「収集・保管」に発信がまた入ってしまっているので、収集・保管が地域の資産を伝えていくために必要だということの強調で終わっていた方がよいのではないか。
- 【中村委員】 保存なのか保管なのかということもあると思う。
- 【田尾委員】 継承まで入れると、保存になると思う。
- 【矢島委員長】 「宝」であって継承しなければならないのだから、保存であると思う。田尾委員のご指摘のように。
- 【田尾委員】 継承していくために保存していく、と。収集活動も博物館の資産を集めるようなものであり、様々な活動の基礎になることであるという意味を加えておいた方がよいのではないか。
- 【矢島委員長】 基本的な考え方ところで「守り伝える」という言葉を使っており、収集・保存の目的として守り伝えるためということを加えておいた方がよいのではないかと思う。
- 【吉良委員】 「守り伝える」というような文言が(1)から(4)までにあるとよい。
- 【矢島委員長】 頭のところにあった方がよいと思う。ほかにはいかがか。
- 【井上委員】 ここが疑問なのだが、博物館資料と地域資源、と併記しているが、他の箇所博物館資料を含む地域資源という言い方もしていると思う。するりと読んでしまうと読めてしまうのだが、博物館資料は何なのかわかるのだが、地域資源は様々なものを雑多に含んでいる。その中で、地域資源には博物館資料を含むという言い方をしたり、収集・保存するのであれば、地域資源というのは博物館資料とは違うと思うのだが。ここで言うなら地域資源に関する情報の収集は、情報発信でいいのだと思う。個人的には地域資源と博物館資料の関係がすっきりしないところがある。
- 【矢島委員長】 情報を含め収集すべきものではあるが、わかりにくくなっていると思う。この事項は情報発信に持って行った方がいいように思う。具体的なモノの収集と情報の収集は切り分けておかないとわかりにくい。
- 【中村委員】 普通には収集するというとモノである。博物館資料の収集という意味で使っていて、情報の収集という言い方では使っていない。ここがご指摘のようにあいまいで、収蔵庫に収めるものと漠然とした地域情報の両方となる

となかなか限られた中で大変であろうと思う。博物館資料をしっかりと収集し保存するというのと、地域情報ということは分けたほうがよいのではないか。

【田尾委員】 博物館資料とそれに関する情報、ということになると思う。

【中村委員】 地域情報というと通常入らない。

【矢島委員長】 地域資源に関する情報は(2)の最後に入っているの、そこを書き換えるような形で、地域資源に関する情報の発信に重きを置いて、うつさせてもらえればと思うが。収集の対象には各種の情報は含まれると思うが、収集・保存のところでは、具体的なモノのことを整理をして。文章を入れ替えるだけでも収まるかもしれないが。資料を収集する、保存するというのを一連にしてしまっ、地域資源に関する情報も収集し発信するというように。間に来ているから読みにくいかもしれない。中身について異論があるわけではないので、再度整理していただきたい。

では、各項の小見出しをどうするかであるが。学習を支える。展示も含め、博物館からの発信、守り伝えるといったことを、うまく言葉に直せるか。にわかにはよい言葉が出てこないため、事務局とも相談のうえ、皆様のご意見を反映させたい。

それでは、先ほど井上委員のご指摘にあった「おわりに」であるが、言ってみれば残された課題という形でここに書かれているが、今日、議論した1から4までの中に取り込むべきところはあるか。

【吉良委員】 結論のところだが、最後の「しかるべきタイミングで」というのは、地域の文化財の状況をみると遅きに失している感がある。しかるべきタイミングという曖昧模糊とした言葉ではなく、「早急につくるべき」とか、明確に私たちの主張を出したほうがよいと思う。

【井上委員】 わたしもこここのところは、前回、20年前に提言書が出されたのにもかかわらず実現できなかったという哲を踏まないためにも、「しかるべきタイミング」というとタイミングが来なければ半永久的にととらえられてしまうところもあるので、現実的には様々な問題があると思うが、ただ博物館構想策定委員会としては、郷土文化館の老朽化問題があるという切実な問題を打ち出している。そうしたことが前提としてあるのであれば、「早急に設立に向けて一步を進めるべきだ」とか、そうした表現にしないと整合

が取れない。

【中村委員】 「期待する」のではなく「求める」ということである。

【矢島委員長】 そこはわたしもそう思う。

【諸星文化部長】 まだこの文章を克明には市長に報告していないのだが、先日、職員のワーキングメンバーと市長とで、改めて構想の骨子を見直していくことの確認をさせていただいた。その中でいくつかポイントがあり、郷土文化館の老朽化など切迫した問題があるということと、もうひとつは新しい博物館の整備に着手できるのはどうしても数年後になってしまうという行政上の問題がある。平成 28 年度に基本構想の策定は終わると思うので、4 月を過ぎて構想をまとめて提出していただくことになり、その 28 年度中に市の総合計画、市全体の計画を後期基本計画として 29 年度からスタートさせるうえでの議論を今しているところなのだが、その中に博物館をどう位置付けるかということが残っている。実際には構想に基づいて基本計画や基本設計に入っていくのは、平成 31 年、32 年あたりの時間にならざるをえないと我々としては思っている。博物館構想策定委員会がスタートした時点で、3 大案件の話をさせていただき、また芸術文化創造センターの着手の話をさせていただいたが、昨年 7 月に芸術文化創造センターは入札不調になり、結果的に 2 年程度遅れざるをえないこととなったため、その影響も受けることになった。斎場や焼却場など、こここのところ大型の財政出動が立て込んでしまう中で、すぐには博物館に着手できないという事情もある。ただ一方で、先ほどご意見をいただいた、まるごと博物館と郷土文化館の関係は、郷土文化館協議会でも再三ご指摘をいただいているように、今着手できることはもう少し強めにやらなければならないと思っているので、展示や機能、あるいは既存施設との関係性の中で、将来的に中核館となるべき機能を今からできるところは始めていくということである。そこは市長からも我々に指示として出されているところである。新しい博物館の整備にはすぐに着手できないけれども、今できるところはやっていく。特に重要なのは、郷土文化館の位置づけであるとか、ありようを改めて博物館構想に基づいてとらえ直して、これは予算の投入や人の投入ということも含めて活動を切り替えていくということになっている。順番として新しい博物館は先にならざるを得ないが、今年の 5 月には天守閣がり

ニューアルオープンするなど、既存施設が新しくなっていく、充実していくというところでは、少しずつ見えてきているところもある。あるいは史跡の整備も少しずつ進んでいるところもあり、歴史的建造物の保存活用も歴史まちづくり法の関係で進んできているところもあるので、こういったものを総合的にとらえ直して、示していくところもある。「おわりに」で井上委員からご指摘いただいたが、これはただ新しい博物館を先送りにするというのではなく、今できることは課題としてやっていくということを書いていただくと我々としてはありがたいと思う。新しい博物館の整備スケジュールはここで克明に示すことはしづらいのだが、皆様の思いと、我々の問題意識を併せ、これは今からでもやるべきだと書いていただくとありがたい。

【吉良委員】 今おっしゃったハードとソフトの問題で、ハードが難しいということは財政上のことがあるので理解できる。ソフト面は本気でやらないと、いけないし、今からでもできると思う。準備を進めていくべきだということを盛り込む必要がある。

【友部生涯学習課長】 おっしゃるようにソフト面と人材育成は今から着実にしていかないと、新しい博物館がハードしてできた時に対応できる状態にしたいと考えている。それをどこに書くかは別にして、構想の中で打ち出していただければと思う。申し訳ないが、5以降は今回の協議の範囲でなく、参考としてお示ししているので、推敲が終わっていない。暫定的なものをお出ししてしまったが、次回には本日のお話も踏まえてブラッシュアップし、お示しさせていただきたい。

【井上委員】 おわりには次回以降ということ踏まえた上での意見なのだが、5行目の「同時に、既存施設間の連携を具体化する中で、それぞれの機能を高めるためにも、役割を明確にするとともに、これに即した資料の再配置も含めて検討していく必要がある。」というところなのだが、この博物館が歴史総合博物館であるなら、当然歴史のことがメインになるわけで、既存の施設で言えば、文学関係は文学館があり、尊徳関係は尊徳記念館があり、松永安左エ門については松永記念館があるが、図書館にある市史編纂で集めた膨大な資料を図書館の中に置かざるを得ない状況になっている。ここはおそらくほかの施設とはちょっと位置づ

けが違うので、歴史総合博物館とうたった時には、市史編纂で収集した資料の行き場所として必然的に行かざるを得ないし、また、資料を市民にオープンにして貸出できていない状況がある中では、博物館が担う資料の保存施設としての役割は大きいと思う。ここで課題的に資料の再配置も検討していくとは言わないで、そこは新しい博物館の中に位置づけていく必要があると感じている。

【矢島委員長】 わたしも同じように考える。5、6行目、またその下の資料の取り扱いについてどうするかという3つ目から5つ目までのパラグラフの流れ。これは先ほど新たに項目立てすることになった連携の中で、こうするという形で書けなければ、連携の具体的な課題としてそちらに盛り込んでいけば、「おわりに」に入れる必要はないのではないかと。「おわりに」はむしろ内面的な充実を図ることが必要だということ、ソフトと人材育成が重要だということ、また市民の合意形成をどう作っていくのかという方向性というか、そういう宣言という形でまとめる。具体的な課題を「おわりに」から消してしまうのではないが、具体的なことは連携の項で説明という組み立ての方がわかりやすいのではないかと。「おわりに」は残された課題でもかまわないのだが、むしろこれを実現するために、今こういうことをやっていってくださいという提言であるべきであろうと思う。ここは工夫して前の方に盛り込んだ方が、井上委員のご意見もそうだが、わかりやすいのではないかと、構想としての主張もはっきりするのではないかと。それではほかにご意見なければ本日の会議はここまでとする。